

(大島郡知名町大津勤神野)

**位置と環境**

神野貝塚は、沖永良部島知名町大津勤の太平洋に面した臨海砂丘地に位置し、晴天の日には与論島、沖縄本島を望むことができる。東へ300m程離れた同じ臨海砂丘地にはスセン當貝塚が所在する。

**調査の経緯**

1980年2月、沖永良部島の分布調査を行っていた高宮廣衛らが、屋子母海岸から大津勤海岸へかけて工事中であったサイクリング道路断面に遺物包含層が露出しているのを発見した。その後、昭和57(1982)年に沖縄国際大学、昭和58(1983)年に沖縄国際大学・鹿児島大学が調査を実施した。

**遺構と遺物**

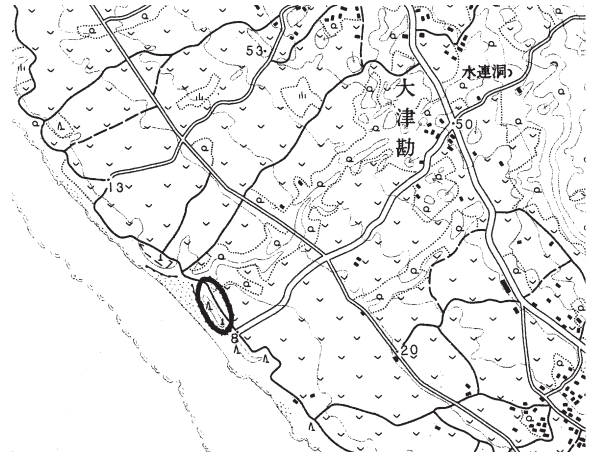
本遺跡は、臨海砂丘地で一帯は防風林となっており、樹木の比較的少ない箇所にABC計3本のトレンチ(44m<sup>2</sup>)が設定された(第2図)。調査の結果、縄文時代前期～後期の石器、骨・角・牙製品、貝製品、土器などが出土したが、遺構は検出されなかった。

縄文時代前期の遺物は、鹿角製品、貝匙(第3図1)・貝刃・タカラガイ製品・イモガイ製品などの貝製品、室川下層式(第4図1)・神野A式(第4図2)・神野B式(第4図3)・轟系式(第4図21)・春日式類似土器(第4図22)・擬縄文土器等の土器が出土した。

貝匙は、ヤコウガイを利用したもので、切断部及び背面の縫合部には研磨が施され平滑に加工されている。柄の部分は加工が雑で左右対称とならず先端部は破損している。

神野A式は、室川下層式の系統に属する新型式の土器で、層位的出土状況から縄文前期末の土器として位置づけられた。神野B式は、層位的出土状況と口径が胴部最大径より小さいという器形の特徴が面縄前庭様式に通ずることから、室川下層式に後続し面縄前庭様式に先行する土器と位置づけられた。

縄文時代中期の遺物は、骨針・骨製尖頭器・ジュゴンの肋骨を素材とした装身具(第3図2)等の骨



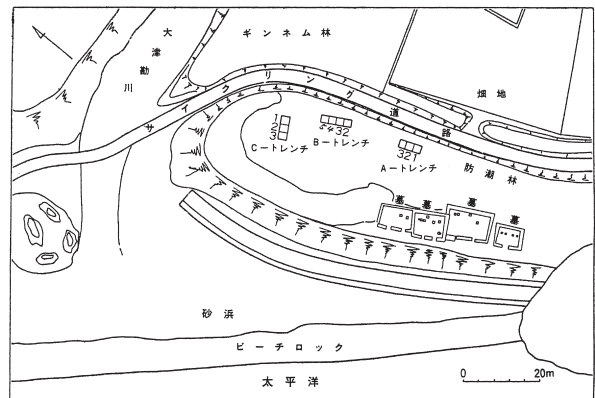
第1図 神野貝塚の位置

製品、貝斧(第3図3)・貝匙・貝鏃・貝輪・イモガイ製品・ヤコウガイ製品等の貝製品、具志川式(第4図4)・神野C式(第4図5)・面縄前庭式(第4図7・8)等の土器が出土している。

ジュゴンの肋骨製品は、全面が丁寧に研磨され頭部には両面から孔があげられる。大きさや形状から、利器か簪の一種と考えられている。

貝斧は、ヤコウガイの蓋を利用したもので、縁辺部に打撃を加え刃部をつくりだしている。

神野C式は、面縄前庭式の一群に属する新型式の土器で、具志川式に後続し、面縄前庭式に先行する土器として位置づけられた。B区において面縄前庭様式(具志川式・神野C式・面縄前庭式)が縄文時代前期の層と縄文時代後期の層に挟まれたVI・VII層で単に出土したことは従来不明な部分の多かった南西諸島縄文時代中期の解明に重要な成果をもたらした。



第2図 周辺の地形と調査地点

縄文時代後期の遺物は、石斧・石皿・磨石等の石器、弓筈状角製品、サメ歯製品（第3図4・5）、骨鈿・骨針（第3図6）・ジュゴンの肋骨製品・鯨骨製品等の骨製品、貝輪（第3図7）・貝斧・貝鏃・イモガイ製ビーズ（第3図8・9）等の貝製品、面縄東洞式（第4図9）・嘉徳I式A（第4図10・11）・嘉徳I式B（第4図12）・嘉徳II式（第4図13）・神野D式（第4図14・15）・神野E式（第4図16・17）・伊波式（第4図18～20）等の土器が出土した。

サメ歯製品は、イタチザメの歯とメジロザメの歯を利用したものがあり、イタチザメの歯には1～3、メジロザメの歯には1つの孔があげられている。いずれも装飾品とみられている。

骨針は、イノシシの骨を利用したもので、先端の一面のみを加工して尖らせている。先端部は使用のため摩耗し、滑らかになっている。

貝輪は、オオツタノハの周縁を利用したもので、表面や周縁部を研磨するものや、孔を穿つものが見られる。

イモガイ製ビーズは、イモガイの螺塔部に孔をあけたもので、ビーズ状を呈している。形態は、螺塔部を上下から切り取って円形平盤状にするもの、外面のみやや平坦に整形し、一見、円形平盤状にするもの、螺塔部の形を残し、中央に孔をあけるものの3種に分かれる。

本遺跡の骨・貝製品の大部分が縄文時代後期のものである。貝匙・貝斧・鏃貝等の実用品に比べ、貝輪・ビーズなどの装飾品の割合が圧倒的に高い。

土器は、奄美系の面縄東洞式・嘉徳I式、沖縄系

の伊波式土器が出土しているが、新形式の神野D式・神野E式土器も発見された。神野D式は、嘉徳I式から派生した土器と考えられ、口縁部が肥厚して文様帯をつくるという共通した特徴を持っている。しかし、文様・器形とも伊波式土器とほぼ一致しており、伊波式土器の祖型の一つとして位置づけられた。神野E式土器は、口縁部の肥厚が消失し、点刻文を上下に1組施すものである。

### 特徴

縄文時代前期～後期まで遺物が層序に従って出土し、奄美・沖縄諸島の土器編年上重要な遺跡である。

### 資料の所在

A・Bトレンチ出土遺物は、沖縄国際大学に展示・保管されている。Cトレンチ出土遺物は、鹿児島大学に保管されている。

### 参考文献

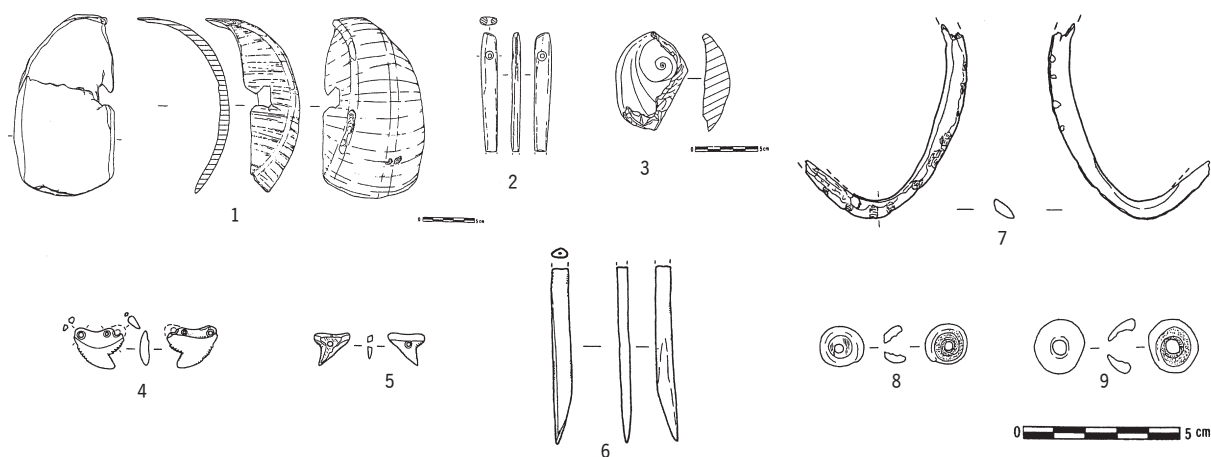
沖縄国際大学文学部考古学研究室1985「沖永良部島神野貝塚発掘調査概報（その1）」『沖国大考古』第7号

沖縄国際大学文学部考古学研究室1985「沖永良部島神野貝塚発掘調査概報（その2）」『沖国大考古』第8号

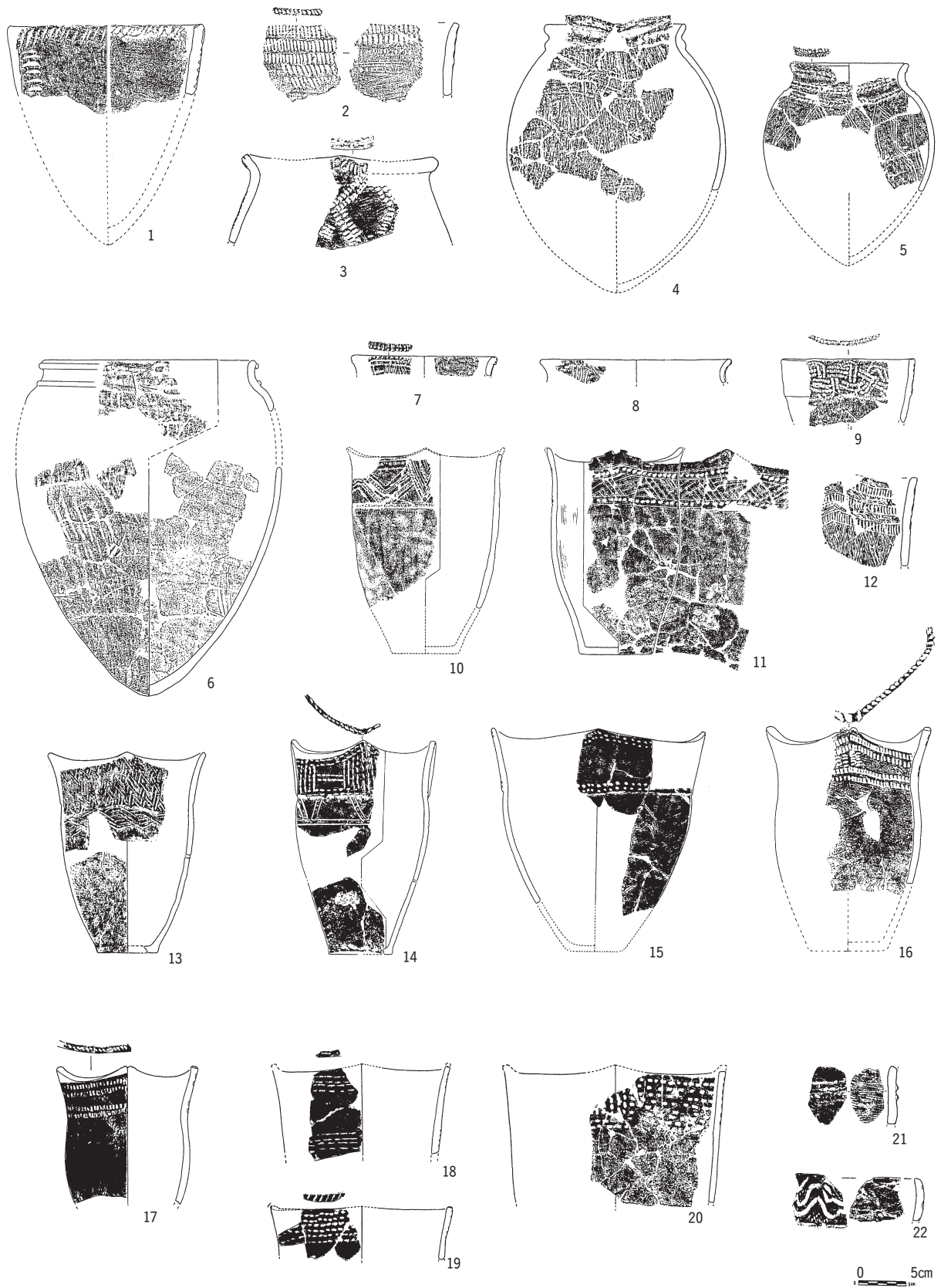
沖縄国際大学文学部考古学研究室1987「沖永良部島神野貝塚発掘調査概報（その3）」『沖国大考古』第9号

鹿児島大学法文学部考古学研究室1984『南西諸島の先史時代に於ける考古学的基礎研究』

（森田太樹）



第3図 出土遺物（1）



第4図 出土遺物(2)